

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社 ごんどう		
事業所名	グループホーム菜の花 1F		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6番26号		
自己評価作成日	平成27年9月7日	評価結果確定日	平成27年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosvoCd=4090800048-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成27年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方々とのふれあいを大切にしながら、運営を行っています。 ・運営推進会議には、町内会長・民生委員・消防分団・交番等からもご参加頂きアドバイスを頂いています。 ・権利擁護・虐待防止・人権研修に力を入れ、研修会にも多く参加しました。 ・今年度は、「福岡県身体拘束ゼロ宣言」に登録しました。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>福岡県では身体拘束の廃止をめざす「福岡県身体拘束ゼロ宣言」への参加を介護事業所に呼びかけており、今年度、事業所はこの宣言に登録公表している。この取り組みにより、職員の意識改革に繋がっている。昨年外部評価調査後に、今後の目標達成計画に上げていた備蓄品の完備を課題としていたが、今回の調査で、備蓄品の品目を定めて35項目のチェックリストを作り、多めにアルファ米などを用意し2階事務所に保管してあることを確認できた。事業所では今後、防災の日を設けて、アルファ米の試食を兼ねた食料品の交換をしていく予定を立てている。火災予防のため月1回、電気系統の設備点検を実施しており、調査当日に「九州電気保安協会」の定期点検の様子をみることができ、開設当初より施設設備安全のためのメンテナンスがなされていることを確認できた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で皆とともに自分らしく、のんびりゆったり楽しく暮らします」を理念に毎朝朝礼時に唱和し、管理者と職員は、入居者が、可能な限り地域の中で暮らしているように、その意義を確認し、日々の実践に取り組んでいる。	職員は、理念を共有し入居者に対してのサービスの際には、抑圧感のないように、自由にのんびりとゆったり生活するための支援をしている。朝の起床は、個々のペースを把握しており無理強いせずそれぞれに起き、不眠の方の支援は、なるべく朝日を浴びて覚醒して、一日を過ごすようにして改善をした成功例がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事(敬老会・誕生会・餅つき・消防訓練等)時、民政委員や地域ボランティアの方に参加頂く等、協力頂いている。また、町内清掃活動、地域の行事等には、職員と一緒に入居者にも参加して頂いている。講演会にも参加する等、地域との共存を心がけている。	毎年恒例の餅つきには、町内の子供会や行政の方々、近隣の方々の多数の参加があり、皆が楽しみにしており、職員は早くから計画を立てている。地域ボランティアの方々の施設訪問は多くの頻度でなされている。町内会に入り、年2回の清掃にも元気な入居者とともに参加して交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた施設を目指して、地域民生委員、町内会長等からの、地域の高齢者に対する相談を受けたり、必要であれば、適切な相談窓口の紹介を行う等している。また、運営推進会議時に、相談の時間を設け、意見交換を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民代表、消防関係者、交番、家族の方々に参加頂き、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告、職員の教育研修報告を行い、意見を聞きながら、サービス向上に活かしている。運営推進会議欠席のご家族には、議事録を郵送し、情報を共有している。	家族からの意見をもらい、災害に備えた備蓄品の完備をするために、アルファ米などを購入して備蓄しており、更に事業所独自の防災の日を設定して、水やアルファ米の試食を試みる予定でいる。会議に参加された方々の意見や情報を組み上げ、入居者の安全・安心に繋がるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市介護サービス課、地域包括支援センターと密接に報告、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。公的支援を受けている入居者様に関しては、市の担当者と密に連絡を取るよう心がけている。	行政からの、施設の空き室状況の問い合わせ、見学などがあつたり、民生委員からの情報や相談にも対応している。普段から地域の方々からの何気ない相談を受けており、信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない施設である。その必要性が生じたとき、規程に基づき実施するとしているが、これまで身体拘束の実績はない。「福岡県身体拘束ゼロ宣言」の趣旨に賛同し、宣言書提出の上、登録を行った。	今年度から「福岡県身体拘束ゼロ宣言」に登録した事業所であり、職員の意識も少しずつ変わってきて、居室の壁からベットを離したり、車椅子の方への接し方や認知症の方の心理を探る声かけなどの接遇が適切に行われている。職員は外部研修に出向き、内部勉強会に繋げ研鑽している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において「身体拘束ゼロ」を含めた虐待防止研修を行い、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。権利擁護の研修にも参加し、高齢者虐待防止法について学習している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用していた人が居たので学ぶことが出来、理解が深まった。権利擁護などの研修へ参加し、関係者が共通した認識を、持てるようにしている。	入居者が以前利用していた、成年後見制度については、実践しながらの知識を持っている。公的支援を受けている入居者がいるため、制度を理解しながら支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、入居者や家族等の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行い、希望者には、体験利用も行ったうえで納得頂き、契約するよう努めている。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入口横に「ご意見箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。家族の面会時には、直接気付いたことがあれば意見を頂くよう、常に声かけを行ったり、運営推進会議にご出席のご家族に、ご意見・ご要望を伺い運営に反映させている。レクレーションに関しては、利用者の意見を特に反映させている。	1階、2階のそれぞれの入り口には意見箱、記入用紙を設置しているが、残念ながら利用者はいない。家族の訪問時に職員が直接声かけして、頻繁に撮った写真などで入居者の様子を伝えながら、希望などを聞き意見を組み上げようとする姿勢が見られる。カラオケ、ファミリーレストランなどへの外出を希望する入居者の意向に沿う支援をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、朝礼時や直接口頭で受けたり、申し送りノートで共有することで運営に反映できるよう努めている。個人面談を行い、意見、要望を聞き、施設運営や個人の研修計画に反映させている。	丁寧に記録された申し送りノートで、職員間の情報共有がされており、それを管理者が把握していることは記録を見て確認できた。オーナーと管理者は職員との個人面談を実施しており、意見の吸い上げを行っている。	毎年行う個人面談に加えて、自己評価をしてみることを提案し、職員一人ひとりのサービスの振り返りができ、管理者が捉え方の違いを把握して、より良いチームケアのステップアップを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件に沿って、研修会参加、資格取得を奨励し、やりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。有資格者には、資格手当を付け、自主的にスキルアップ出来る体制を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。定年は65歳だが、延長して生き生きと働いてもらっている。派遣社員の正社員への登用を目指し、少しではあるが実現している。	職員の採用基準は、お年寄りが好きな人を前提にして、勤務している職員の年齢は18歳から60歳後半の方がおり、表情も明るく仕事に従事している。勤務環境の改善のために、休憩時は介護場所から離れて、リフレッシュ出来るように、マッサージチェアなどを置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会を設置し、研修会に参加している。ポスターを掲示するなど、昨今の人権教育の必要性を職員に教育、啓発活動に取り組んでいる。校区内の人権尊重講演会にも参加している。	事業所内に虐待防止委員会を作り、職員を配置しており、外部研修へも加給扱いで参加を促している。介護職における人権教育、啓発に力を注いでいることが、年間研修計画や記録などで確認できた。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置にあたっては、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。また、資格の取得や外部研修受講の機会を可能な限り設定している。委員会を設置し、2ヶ月ごとに勉強会や検討会など、協議する機会を設けていたが、毎日の業務を重視する為、十分に機能していない感があるので、定期的に開催できるよう努力している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常時同業者と意見交換をしているが、管理者サイドでの交流に留まっている状態にある。職員については、研修会の際には同業者と話す機会があるので、積極的に意見交換をするよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご本人の不安、疑問解消に時間を費やし、納得して頂くよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご家族の不安の解消に努め、出来る限りご要望等にお答えできるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人・ご家族の状況を把握する為に、「問合せ・見学対応記録簿」を作成している。その情報を整理し、今何が必要なのかを見極め、他のサービス利用も含めたアドバイスを行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとっては、生活の場である為、職員はすべてを介護するのではなく、できる事はして頂くという考えのもとで支援している。料理・菜園の手入れ・洗濯物をたたむ等、それぞれにできる事のお手伝いをお願いしている。入居者一人一人に担当者を決めることで、職員の意識も良い方向に変わってきている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設を身近に感じて頂くため、「菜の花だより」を毎月ご自宅にお送りしている。その中に、月の行事予定を明示し、ご家族の参加を促し、一人一人の様子がわかるような写真も同封している。来設の少ないご家族には、お電話にて、状況報告を行い、必要時はご家族の意見も参考に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の人間関係を大切に、入居後も、共有する時間が持て、関係が継続できるような援助を心がけている。また、ご家族と一緒にの外出、可能であれば、自宅への外泊等も勧めている。	居住している施設が入居者にとって、馴染みの場所になるように、近隣の方々と、おしゃべりできるスペースが事業所前にあり、この場所を利用して、関係継続をしている。入居者の高齢の姉弟の希望で帰宅を支援して、大変喜ばれていた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を見極め、できるだけスムーズに関係が構築できるよう心掛けている。常に見守りを行いながら、必要時は職員が仲を取り持ち、トラブルを招かないよう留意している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の状況としては、医療依存度が高くなり、病院から他施設に移動される例が多いが、入院中、面談に施設職員が同席する、家族の相談にのりアドバイスを行う等、家族の支援ができる体制をとっている。必要時は、次の支援先に情報提供を行っている。本人の退去後も、家族から電話があったり、餅つき等の行事に参加されている等、何らかの関係性を継続している例もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人やご家族の意向に沿った生活支援を心がけている。ただ、自分の思いを表現できない入居者に関しては、家族に確認したり、カンファレンスを行う中で、必要と思われることを話し合い、支援に繋がっていきけるよう努めている。	思いや意向を言葉に表しにくい入居者には、本人の特性や心の中を読み解く事を心がけて対応し、入居者が選択し決定できるようにしている。職員は個人ファイルや日々の記録を共有しケアに取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人にとって大切なことや、生活の思い出等を、入居者やご家族との会話の中から拾い出すことで、今までの生活状況を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態が必ずしも安定しているとは限らない入居者も見られる為、その日の状況を把握したうえで、楽しく安定した生活ができるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、本人の状況、希望と家族の意向、職員からの提案等を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。入居者の状態変化時は、介護計画を状況にそった内容になるよう、その都度見直しを行っている。	入居者個々の服薬は管理薬剤師を中心に勉強会を行い、状態に応じた薬の飲ませ方を看護師サポートのもと、介護職員へ申し送りチームケアに取り組んでいる。一時的に歩けなくなった方が、チームケアによって歩行器で歩けるようになった。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態の記録はもちろん、情報の共有が円滑に行われるよう工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に活かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化に伴い、介護職員が状況に即した適切な対応ができるよう指導し、臨機応変に対応できる体制を取っている。医療的な問題に係らず、問題出現時は情報を共有し、その時に必要な対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域住民、民生委員、子供会に参加していただける行事は、積極的に呼びかけし、消防署や地域の消防団員には、消火訓練時に指導いただくなど地域資源の活用を行っている。地域の交番からも来て頂き、徘徊についてのアドバイスをいただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、基本的に本人及び家族などの希望や意向を反映し決定している。ただし状況によっては、24時間対応が可能な体制を取っている医療機関を紹介し、適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所から車で3分ほどの所に訪問診療所があり、2週間に1回訪問診療が行われている。また歯科は訪問歯科が、1週間に1回訪問し一般治療が行われている。訪問歯科で口腔内の病気が見つかると専門病院に繋げる支援が行われた。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務を行う中で、職員全員が、情報の共有が出来るように心がけている。医療面での対応が必要な場合は、施設の看護師から、かかりつけ医(病院の看護師)に相談し、指示を受け対応している。医師の指示で、訪問看護の導入が必要な場合は、訪問看護師に対しても、必要な情報を提供し、入居者が必要は援助を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時や、状態悪化の際は、かかりつけ医に相談し、安心して治療を受けられる体制をとっている。入院中も病院に面会に伺い、ご本人の状態を確認している。主治医や看護師からの情報も、面談により状況を把握するよう努めている。退院時には必ず面談をお願いし、入居者の退院後の生活について必要な指示を頂いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員を中心に、文献等資料を参考に「マニュアル作成」準備に取り組んでいる段階であり、目標としていた「マニュアル作成」までは至っていない。施設での看取りを行う場合、医療機関と24時間連携が取れる事が望ましいが、現状は訪問診療と往診の2本立てであるため、夜間の対応が困難な面がある。現在、職員教育と並行しながら、「看取り」を行うための基盤作りとして、徐々に訪問診療に移行している段階である。今後も引き続き「施設での看取り」の実現に向けて努力していきたい。	現在、看取りのケースは無いが看護師の資格を持つ管理者のもとで、終末期に向けた対応が出来るように準備がされている。今後、事業所内で看取りが行えるように職員教育、対応を研修で行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を採用し、柔軟な対応ができるように努めている。職員の指導にあたっては、各入居者の持っているリスクに対する対処法を、情報として伝え、急変や事故発生時にスムーズに対応できるように努めている。実際に急変や事故が起こった場合は、報告書等を参考に、事例をあげて検討することで、知識を蓄え、実践力を身に付ける一助としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間に戸外にでる方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については、訓練を実施。自治会や地域の代表者、隣近所に住む地域の方々には、日頃より利用者の特性を理解していただき、非常時に協力いただけるよう働きかけている。また、避難訓練にも参加いただいている。備蓄については、準備が進んでいる。	火災の一時避難場所として、2階であれば駐車場に降りられるベランダに誘導することを事業所内で取り決めている。入居者が避難済みの確認をする為に居室ドアに「在」「不在」の札がある。朝礼では入居者、職員人数を把握する。備蓄品は35項目を準備している。備蓄品のアルファ米は120食と多めに準備しており、事業所が地域の方々の避難場所としての役割も担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護に関する勉強会を行い、個人を尊重した言葉かけや対応を行うよう努めている。また個人情報の取り扱いにも留意している。	入居者への声かけや対応は丁寧であり入居者の気持ちをくみ取る声かけが見られた。プライバシーの配慮は特に入浴時、排泄時の声かけや対応に注意をはらっている。カーテンで仕切り羞恥心に配慮した声かけで対応している。勉強会で事例をもとに日々のケアの在り方を学んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望については、本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活ができるよう努めているが、希望に沿えない場合は、代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての1日のスケジュールは決まっているが、入居者のその日の心身の状況を把握したうえで、一人ひとりに適した対応を行っている。生活のメリハリをつけたり、機能の低下を予防するため、必要と思われる内容については、無理強いはないが、納得して参加して頂けるような働きかけを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理美容を行っている。身だしなみやおしゃれのタイミングに関しては、本人が希望する時にできるよう支援している。化粧品の購入希望は職員が相談にのっている。レクレーションでネイルなど、室内で楽しめる事を行っている。メイク用品も準備し、お好きな時にメイクが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューに沿った献立以外にも、レクレーションの企画を通して、お弁当、おやつ作成等を、職員と一緒に、出来る範囲ではあるが、お手伝いして頂いている。 また、ドライブ等の外出を利用し、ファミレスで、食事やお茶の時間を楽しむ等、変化を取り入れるよう工夫している。	食事中はテレビは消し懐かしい歌謡曲がかかっていた。食器は馴染みの茶わんや湯飲み、箸を使っていた。個々のペースで職員もせかすことなく見守り対応を行っていた。食後は自分で下膳出来る方は台所に運んでいた。季節行事の食事は希望のにぎりすしや、おでん、もちつきでの大根もちを提供している。おやつは手作りのホットケーキや芋ようかん、たこ焼きなど職員と一緒に調理する事もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量の把握に努め、栄養バランスについては、外注によるカロリー管理を組み込み、脱水症を防ぐための水分確保のための習慣づけ、サービスの提供、また個別の工夫を取り入れている。水分補給に関しては、飲み物の種類を多くするなど、水分量を確保する為に工夫している。食事摂取量が減少した場合は、食事形態の変更や、家族と相談し本人が好む食品の購入等も試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎週、歯科の訪問診療を受け、指導・指示のもと、磨き方の指導が出来るよう支援している。歯科に関する問題が生じた場合は、歯科医師や歯科衛生士と連携し対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔、パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。また、入居者個々の持てる能力を見極め、職員が統一した働きかけを行うことで排泄の自立を促す取り組みを行なっている。	排泄では、オムツ業者による商品の勉強会でパットのあて方や選び方など、パットから尿漏れがない工夫や男女の排泄量の特徴などを学び排泄支援に役立てている。個人の排泄習慣を観察し自立への支援や尿路感染の早期発見で重度化を防いでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘予防と対応のため飲食物の工夫(ヨーグルト・牛乳等)を行ない、水分量を調整したり、腹部マッサージや温湿布を行う等の対応を行っている。医師の指示のもと、下剤での調整もやっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回をめぐりに入浴をして頂いている。入浴日は決まっているが、曜日にとられる事無く、状況に合わせた対応を行っている。	異性介助もあるが入浴時の声かけを工夫し、気持ちよく入浴し本人の身だしなみの意欲につながっている。入浴拒否対応は職員らが勉強会を行い、「外出するからきれいになりましょう」と、「入浴」の言葉を使わずに声かけをしたり、「洋服選びを本人本位にするように変え、成功した事例がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間を設けることなく、他の利用者に迷惑をかけない程度で夜間のテレビを楽しんだり、日中も本人の希望により、横になって、昼寝をしたりできるようにしている。また、不眠な状況であれば、安心して眠れるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの利用者が服薬している薬が、何を改善するための薬であるか情報を共有したり、用法、用量について申し送りを通じて確認を行うと共に、必要に応じて主治医へ報告、相談できるようにしている。与薬時の手順を看護師が指導している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや家事の手伝い等、入居者のできる事を継続して行って頂くことで役割・楽しみ・生きがいに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、戸外への外出支援を行なっている。町内の夏祭り、防災訓練、清掃活動等、自主的に参加し、外出を促している。また、事業所の中にばかりいる事を希望する入居者には、都度、声かけし、短時間でも戸外での日光浴や気分転換を図るよう働きかけている。テラスに椅子とテーブルを置き、外出に繋げる工夫をしている。	入居者と職員と一緒に近所に散歩に出かけていた。事業所前の敷地に、しだれ桜があり花が咲く頃はお花見に出かけたり、地域の文化祭バザーに出かけたりしている。職員が買い物に行く日には、入居者に声かけを行いプチ外出を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物品の買い物支援では、個人の意思で使えるよう支援している。本人の申し出により、家族からお金をもらった際には、なくす前に預かるが、納得いくまで一時的に持っておくなどの支援も行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援はもちろん、年賀状を書く支援等も行なっている。また、本人が精神的に不安定な状況の際などは、家族の声を聞くことで安心できるよう支援を行なっている。ご家族には、行事の写真を郵送することで、特に遠方で頻繁な面会が困難なご家族からは、様子がわかり安心出来ると喜んで頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節の花々や、利用者による共同制作の作品や、行事での写真を掲示し、生活感や季節感をとり入れている。	昨年の冬からトイレには下用のホットタオル器が用意されたり、浴室では塩と水を使った「ハード水」を使用し塩素消毒の代わりに使い、掃除や衣類の消毒に使用され人にも環境にもやさしい工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、独りになることはほとんどない。だが、思い思いに自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、家族と一緒に過ごしたり、仲の良い入居者同士で過ごせるよう工夫をしている。バルコニーにテーブルと椅子を置き、外気にあたりお茶を飲むスペースを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は、本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で危険がない馴染みの家具を持ち込んでいただくことで、本人が居心地良く過ごせるような働きかけを行っている。	居室は観音開きの箆笥と整理箆笥とベット、エアコンが備わっている。居室によっては夫婦で使えるように隣どうしがスライド扉でつながっている。入居者の以前からの使用の家具や仏壇、日本人形、ソファー、写真が配置されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力や記憶障害の程度も様々である為、居室入口に写真を掲示し、混乱や不穏が少なくなるように工夫している。担当職員が入居者と共に、入居者の意思を尊重した、居室内の環境整備を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社 ごんどう		
事業所名	グループホーム菜の花 2階		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6番26号		
自己評価作成日	平成27年9月7日	評価結果確定日	平成27年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosovoCd=4090800048-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成27年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方々とのふれあいを大切にしながら、運営を行っています。 ・運営推進会議には、町内会長・民生委員・消防分団・交番等からもご参加頂きアドバイスを頂いています ・権利擁護・虐待防止・人権研修に力を入れ、研修会にも多く参加しました。 ・今年度は、「福岡県身体拘束ゼロ宣言」に登録しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で皆とともに自分らしく、のんびりゆったり楽しく暮らします」を理念に毎朝朝礼時に唱和し、管理者と職員は、入居者が、可能な限り地域の中で暮らしているように、その意義を確認し、日々の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事(敬老会・誕生会・餅つき・消防訓練等)時、民政委員や地域ボランティアの方に参加頂く等、協力頂いている。また、町内清掃活動、地域の行事等には、職員と一緒に入居者にも参加して頂いている。講演会にも参加する等、地域との共存を心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた施設を目指して、地域民生委員、町内会長等からの、地域の高齢者に対する相談を受けたり、必要であれば、適切な相談窓口の紹介を行う等している。また、運営推進会議時に、相談の時間を設け、意見交換を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民代表、消防関係者、交番、家族の方々に参加頂き、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告、職員の教育研修報告を行い、意見を聞きながら、サービス向上に活かしている。運営推進会議欠席のご家族には、議事録を郵送し、情報を共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市介護サービス課、地域包括支援センターと密接に報告、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。公的支援を受けている入居者様に関しては、市の担当者と密に連絡を取るよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない施設である。その必要性が生じたとき、規程に基づき実施するとしているが、これまで身体拘束の実績はない。「福岡県身体拘束ゼロ宣言」の趣旨に賛同し、宣言書提出の上、登録を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において「身体拘束ゼロ」を含めた虐待防止研修を行い、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。権利擁護の研修にに参加し、高齢者虐待防止法について学習している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用していた人が居たので学ぶことが出来、理解が深まった。権利擁護などの研修へ参加し、関係者が共通した認識を、持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、入居者や家族等の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行い、希望者には、体験利用も行ったうえで納得頂き、契約するよう努めている。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入口横に「ご意見箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。家族の面会時には、直接気付いたことがあれば意見を頂くよう、常に声かけを行ったり、運営推進会議にご出席のご家族に、ご意見・ご要望を伺い運営に反映させている。レクリエーションに関しては、利用者の意見を特に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、朝礼時や直接口頭で受けたり、申し送りノートで共有することで運営に反映できるよう努めている。個人面談を行い、意見、要望を聞き、施設運営や個人の研修計画に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件に沿って、研修会参加、資格取得を奨励し、やりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。有資格者には、資格手当を付け、自主的にスキルアップ出来る体制を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。定年は65歳だが、延長して生き生きと働いてもらっている。派遣社員の正社員への登用を目指し、少しではあるが実現している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会を設置し、研修会に参加している。ポスターを掲示するなど、昨今の人権教育の必要性を職員に教育、啓発活動に取り組んでいる。校区内の人権尊重講演会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置にあたっては、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。また、資格の取得や外部研修受講の機会を可能な限り設定している。委員会を設置し、2ヶ月ごとに勉強会や検討会など、協議する機会を設けていたが、毎日の業務を重視する為、十分に機能していない感があるので、定期的に開催できるよう努力している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常時同業者と意見交換をしているが、管理者サイドでの交流に留まっている状態にある。職員については、研修会の際には同業者と話す機会があるので、積極的に意見交換をするよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご本人の不安、疑問解消に時間を費やし、納得して頂くよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご家族の不安の解消に努め、出来る限りご要望等にお答えできるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人・ご家族の状況を把握する為に、「問合せ・見学対応記録簿」を作成している。その情報を整理し、今何が必要なのかを見極め、他のサービス利用も含めたアドバイスを行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとっては、生活の場である為、職員はすべてを介護するのではなく、できる事はして頂くという考えのもとで支援している。料理・菜園の手入れ・洗濯物をたたむ等、それぞれにできる事のお手伝いをお願いしている。入居者一人一人に担当者を決めることで、職員の意識も良い方向に変わってきている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設を身近に感じて頂くため、「菜の花だより」を毎月ご自宅にお送りしている。その中に、月の行事予定を明示し、ご家族の参加を促し、一人一人の様子がわかるような写真も同封している。来設の少ないご家族には、お電話にて、状況報告を行い、必要時はご家族の意見も参考に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の人間関係を大切にし、入居後も、共有する時間が持て、関係が継続できるような援助を心がけている。また、ご家族と一緒にの外出、可能であれば、自宅への外泊等も勤めている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を見極め、できるだけスムーズに関係が構築できるよう心掛けている。常に見守りを行いながら、必要時は職員が仲を取り持ち、トラブルを招かないよう留意している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の状況としては、医療依存度が高くなり、病院から他施設に移動される例が多いが、入院中、面談に施設職員が同席する、家族の相談にのりアドバイスを行う等、家族の支援ができる体制をとっている。必要時は、次の支援先に情報提供を行っている。本人の退去後も、家族から電話があったり、餅つき等の行事に参加されている等、何らかの関係性を継続している例もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人やご家族の意向に沿った生活支援を心がけている。ただ、自分の思いを表現できない入居者に関しては、家族に確認したり、カンファレンスを行う中で、必要と思われることを話し合い、支援に繋げていけるよう努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人にとって大切なことや、生活の思い出等を、入居者やご家族との会話の中から拾い出すことで、今までの生活状況を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態が必ずしも安定しているとは限らない入居者も見られる為、その日の状況を把握したうえで、楽しく安定した生活ができるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、本人の状況、希望と家族の意向、職員からの提案等を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。入居者の状態変化時は、介護計画を状況にそった内容になるよう、その都度見直しを行っている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態の記録はもちろん、情報の共有が円滑に行われるよう工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に活かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化に伴い、介護職員が状況に即した適切な対応ができるよう指導し、臨機応変に対応できる体制を取っている。医療的な問題に係らず、問題出現時は情報を共有し、その時に必要な対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域住民、民生委員、子供会に参加していただける行事は、積極的に呼びかけし、消防署や地域の消防団員には、消火訓練時に指導いただくなど地域資源の活用を行っている。地域の交番からも来て頂き、徘徊についてのアドバイスをいただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に関しては、基本的に本人及び家族などの希望や意向を反映し決定している。ただし状況によつては、24時間対応が可能な体制を取っている医療機関を紹介し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	業務を行う中で、職員全員が、情報の共有が出来るように心がけている。医療面での対応が必要な場合は、施設の看護師から、かかりつけ医(病院の看護師)に相談し、指示を受け対応している。医師の指示で、訪問看護の導入が必要な場合は、訪問看護師に対しても、必要な情報を提供し、入居者が必要は援助を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時や、状態悪化の際は、かかりつけ医に相談し、安心して治療を受けられる体制をとっている。入院中も病院に面会に伺い、ご本人の状態を確認している。主治医や看護師からの情報も、面談により状況を把握するよう努めている。退院時には必ず面談をお願いし、入居者の退院後の生活について必要な指示を頂いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員を中心に、文献等資料を参考に「マニュアル作成」準備に取り組んでいる段階であり、目標としていた「マニュアル作成」までは至っていない。施設での看取りを行う場合、医療機関と24時間連携が取れる事が望ましいが、現状は訪問診療と往診の2本立てであるため、夜間の対応が困難な面がある。現在、職員教育と並行しながら、「看取り」を行うための基盤作りとして、徐々に訪問診療に移行している段階である。今後も引き続き「施設での看取り」の実現に向けて努力していきたい。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を採用し、柔軟な対応ができるように努めている。職員の指導にあたっては、各入居者の持っているリスクに対する対処法を、情報として伝え、急変や事故発生時にスムーズに対応できるように努めている。実際に急変や事故が起こった場合は、報告書等を参考に、事例をあげて検討することで、知識を蓄え、実践力を身に付ける一助としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋間に戸外にできる方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については、訓練を実施。自治会や地域の代表者、隣近所に住む地域の方々には、日頃より利用者の特性を理解していただき、非常時に協力いただけるよう働きかけている。また、避難訓練にも参加いただいている。備蓄については、準備が進んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護に関する勉強会を行い、個人を尊重した言葉かけや対応を行うよう努めている。また個人情報の取り扱いにも留意している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望については、本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活ができるよう努めているが、希望に沿えない場合は、代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての1日のスケジュールは決まっているが、入居者のその日の心身の状況を把握したうえで、一人ひとりに適した対応を行っている。生活のメリハリをつけたり、機能の低下を予防するため、必要と思われる内容については、無理強いはないが、納得して参加して頂けるような働きかけを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に一度訪問理美容を行っている。身だしなみやおしゃれのタイミングに関しては、本人が希望する時にできるよう支援している。化粧品の購入希望は職員が相談にのっている。レクレーションでネイルなど、室内で楽しめる事を行っている。メイク用品も準備し、お好きな時にメイクが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューに沿った献立以外にも、レクレーションの企画を通して、お弁当、おやつ の作成等を、職員と一緒に、出来る範囲ではあるが、お手伝いして頂いている。 また、ドライブ等の外出を利用し、ファミレスで、食事やお茶の時間を楽しむ等、変化を取り入れるよう工夫している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量の把握に努め、栄養バランスについては、外注によるカロリー管理を組み込み、脱水症を防ぐための水分確保のための習慣づけ、サービスの提供、また個別の工夫を取り入れている。水分補給に関しては、飲み物の種類を多くするなど、水分量を確保する為に工夫している。食事摂取量が減少した場合は、食事形態の変更や、家族と相談し本人が好む食品の購入等も試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎週、歯科の訪問診療を受け、指導・指示のもと、磨き方の指導が出来るよう支援している。歯科に関する問題が生じた場合は、歯科医師や歯科衛生士と連携し対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔、パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。また、入居者個々の持てる能力を見極め、職員が統一した働きかけを行うことで排泄の自立を促す取り組みを行なっている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘予防と対応のため飲食物の工夫(ヨーグルト・牛乳等)を行ない、水分量を調整したり、腹部マッサージや温湿布を行う等の対応を行っている。医師の指示のもと、下剤での調整も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回をめぐりに入浴をして頂いている。入浴日は決まっているが、曜日にとられる事無く、状況に合わせた対応を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間を設けることなく、他の利用者に迷惑をかけない程度で夜間のテレビを楽しんだり、日中も本人の希望により、横になって、昼寝をしたりできるようにしている。また、不眠な状況であれば、安心して眠れるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの利用者が服薬している薬が、何を改善するための薬であるか情報を共有したり、用法、用量について申し送りを通じて確認を行うと共に、必要に応じて主治医へ報告、相談できるようにしている。与薬時の手順を看護師が指導している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや家事の手伝い等、入居者のできる事を継続して行って頂くことで役割・楽しみ・生きがいに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、戸外への外出支援を行なっている。町内の夏祭り、防災訓練、清掃活動等、自主的に参加し、外出を促している。また、事業所の中にばかりいる事を希望する入居者には、都度、声かけし、短時間でも戸外での日光浴や気分転換を図るよう働きかけている。テラスに椅子とテーブルを置き、外出に繋げる工夫をしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物品の買い物支援では、個人の意思で使えるよう支援している。本人の申し出により、家族からお金をもらった際には、なくす前に預かるが、納得いくまで一時的に持っておくなどの支援も行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援はもちろん、年賀状を書く支援等も行なっている。また、本人が精神的に不安定な状況の際などは、家族の声を聞くことで安心できるよう支援を行なっている。ご家族には、行事の写真を郵送することで、特に遠方で頻繁な面会が困難なご家族からは、様子がわかり安心出来ると喜んで頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節の花々や、利用者による共同制作の作品や、行事での写真を掲示し、生活感や季節感をとり入れている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、独りになることはほとんどない。だが、思い思いに自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、家族と一緒に過ごしたり、仲の良い入居者同士で過ごせるよう工夫をしている。バルコニーにテーブルと椅子を置き、外気にあたりお茶を飲むスペースを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は、本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で危険がない馴染みの家具を持ち込んでいただくことで、本人が居心地良く過ごせるような働きかけを行っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力や記憶障害の程度も様々である為、居室入口に写真を掲示し、混乱や不穏が少なくなるように工夫している。担当職員が入居者と共に、入居者の意思を尊重した、居室内の環境整備を行っている。		